

令和7年度 山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書

| | | |
|--|--|---|
| <p>1 教育目標(めざす生徒像)</p> <p>① 幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と地域産業の発展に寄与する人間の育成</p> <p>② 柔軟な思考とたゆまぬ実践により、ものごとの真理を探究する人間の育成</p> <p>③ 個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成</p> <p>④ 心身ともに健全で、正義感あふれるたくましい人間の育成</p> | <p>2 めざす学校像</p> <p>① 規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する資質・能力を育成する学校</p> <p>② 基礎学力の定着と向上を図り、生徒の幸せな将来の生き方に向けたキャリア教育を実践する学校</p> <p>③ 心身の健康増進を図り、安全安心で主体的に学び合える学習環境をつくる学校</p> <p>④ 地域と積極的な交流を図るとともに、地域活性化に貢献する学校</p> <p>⑤ 地域の声を受け止め、将来へとつながる時代に適応した教育改革を推進する学校</p> | <p>3 学校経営方針</p> <p>①「志高」 自らの夢や希望に向かって挑戦する力の育成 自らの特長を生かし、社会で必要とされる人材として、個々の目標を定め、たゆまぬ努力によって挑戦続ける人づくり</p> <p>②「創造」 自ら価値を創造し、新たな価値を創造する力の育成 自ら考え、主体的に判断し、柔軟かつ的確に課題解決できる人、多様な他者と協働しながら新たな価値を生み出し、幸せな生き方・人生にむけて地域産業の発展に貢献できる人づくり</p> <p>③「自立」 自らの価値を自覚し、自己実現に向け踏み出す、自律に向けた力の育成 社会人として活躍できる資質および能力を伸長し、周囲から信頼される人材として主体的に行動できる人づくり</p> <p>④地域産業を支える人材の育成 地域の課題を主体的に捉え、地域の人と協働し、地域の幸せな未来と地域産業の発展に貢献できる人づくり</p> |
|--|--|---|

【評価】 A:達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

| 重点目標及び具体的対応と指標・基準等 | 評価 | 成果・課題・次年度への取り組み | 学校関係者評価 意見・要望等 |
|---|----|--|-------------------|
| (1)「志高」自らの夢や希望に向かって挑戦する力の育成(7教振;「一人ひとりが自分らしく可能性にチャレンジできる学びを実現する」) | | | |
| <p>①2年対象インターンシップの実施。 ②資格取得及び各種検定の合格率向上。</p> | B | 2年生全員が6月に3日間のインターンシップを経験し、キャリア意識を向上させることができた。また、3学科ともに各種検定に積極的に取り組んでいるが、次年度はさらに合格率を増やす手立てを講じていきたい。 | A |
| <p>③「社会人講話」の実施。 ④地域や企業等と協働した課題研究(フューチャープロジェクト等)</p> | A | 多くの地元企業人から講話をいただき、将来自立して働くことの意義を学ぶことができた。また企業や大学等研究機関の方々と協働して課題研究を行い成果を収めた。次年度以降も、地域振興につながる具体的な取り組みを進めていきたい。 | A |
| <p>⑤企業との共同研究を通じた先端的専門技術の習得 ⑥農・工・商各学科それぞれの特徴を生かした学校づくりの構築</p> | B | 農学科による「ミチノクヒメクリ」の抽出エキスを含んだ美容液の発売、工学科による地元企業と連携した共同研究、商学科による地元の講師を招聘しての金融講座など、最先端の技術を得ながら、より特色ある学科づくりを行うことができた。 | A |
| <p>⑦ICTの活用による業務の効率化。</p> | B | 昨年1月より「GG」(県立学校職員勤務管理システム)の導入により休暇・旅行(出張)・復命等申請が電子化された。「校務支援システム」と併せ、各種申請等の負担軽減につながったと思われ、時間外労働時間が昨年度から減少している。(4月～9月総時間 R7;2163.6h R6;2277.5h) | A |
| <p>⑧教職員対象の外部研修への参加推進。</p> | B | 法定研修(初任研など)以外の研修参加者延べ25名(教育局主催研修、地元企業研修、農業クラブ夏期研修会、総合探究発表会など ※R6;21名)。今後も資質向上のために外部研修への参加を促していきたい。 | A |
| (2)「創造」自ら価値を創造し、新たな価値を創造する力の育成(7教振;「社会の変化に対応した学びの環境を整える」) | | | |
| <p>①授業評価アンケート(年2回)の実施 ②一人一台端末を活用した教育の実践 ③ICT活用研修会(年2回)の実施 ④公開授業と授業研究の実施(年2回)</p> | B | ほぼ予定通り実施することができた。授業アンケートでは「各科目において家庭学習を行ったか」という質問に対して全体の67.7%が「行った」と回答している。次年度も、家庭学習を頑張ったと自信をもって言える生徒が増えるよう、生徒が取り組みやすい課題や教材の工夫を継続していきたい。校内授業研究では、研究課題「評価の場面や方法の工夫」で実施した。また、観点別評価について、各教科で「内容のまとめりごとの評価基準」を作成した。来年度も指導と評価の一体化、授業改善に取り組んでいきたい。 | B |
| <p>⑤各学科ごとの産業視察等の実施。 ⑥課題研究発表会及び学習成果発表会の開催</p> | B | 各学科とも、産業視察・各研究発表会を予定通り実施することができた(「課題研究発表会」;令和8年1月31日実施、外部参加者85名 ※R6 79名)。 | B |
| <p>⑦ICTを活用した個別最適な授業の実践。</p> | B | 生成AIを活用した個別最適な学びについて、授業実践を行った教科もあった。ICT(主にGoogle)を活用した指導については、「授業力の向上」も含め、今後も研修会等を通じて周知及び実践を促していきたい。 | B |
| <p>⑧探究的な学び(課題研究など)の実践 ⑨特別活動の充実</p> | B | 1・2年生の総合的な探究の時間では、3年生の課題研究に繋げるための探究活動に必要な基本的な資質・能力の育成に励んだ。3年生の課題研究及び発表会の取り組んでいる姿勢から、生徒の主体的な学びは大いに向上したと思われる。次年度もさらに質の高い取り組みを進めていきたい。 | B |
| (3)「自立」自らの価値を自覚し、自己実現に向け踏み出す、自律に向けた力の育成(7教振;「誰一人取り残されず、誰もが続けられる学びの機会を充実する」) | | | |
| <p>①年間出席率99.0%以上</p> | C | 2学期末現在全体の出席率96.7%(昨年度より1.3%減)。次年度に向けて、保健室、各学年、家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立や個々の体調管理に努めさせたい。 | B |
| <p>②いじめの絶無・良好な人間関係の構築。 ③SNS関連の問題行動の根絶 ④学校行事や生徒会活動への積極的な参加</p> | C | ・各種講話を実施しているが、さらに見直しの必要があると思われる。全職員での日常的な指導が不可欠であり、またLHR・学年集会等を活用してのタイムリーな指導も重要であり、その取り組みも進めてゆく。 ・クラスマッチ・学校祭・体育祭をはじめ、各種委員会等、校内での活動では意欲的な取り組みが見られた。一方で、外部から要請された活動については、一部生徒の参加にとどまった。神室ボランティア会所属生徒の事業への参加を増加させる手立てを考えてゆく。 | B |
| <p>⑤ふれあい指導(年4回)の実施</p> | B | 4・6・8・10月に各3日間本校職員による登校時の立哨指導を実施した。うち2回は風紀委員会によるマナーアップの呼びかけも行った。次年度も継続して実施し、挨拶の励行・マナー遵守の意識高揚につなげたい。 | B |
| <p>⑥「ABC委員会」及び「ケース別検討会」の設置 ⑦生徒・保護者との積極的な面談</p> | A | 各学年の状況について学年間・学年と保健室間で情報を共有しながら生徒理解を図った。様々な場面での生徒の気になる様子などもスピーディーに共有し、問題の早期発見に努めた。家庭の協力を得るために、スクールカウンセラーの助言をいただきながら細やかな手立てを行った。保健室では「ケース別検討会」も開催し、外部機関と連携を図り生徒や保護者の支援に努めた。次年度もさらに発展を目指して継続していく。 | B |
| (4)地域産業を支える人材の育成(7教振;「社会の変化に対応した学びの環境を整える」) | | | |
| <p>①地域課題を題材にした校内における課題研究等への取り組み。 ②専門学科通信「未来の風」の発行(年3回)</p> | B | 農(企業と連携した廃菌床の有効活用など)・工(食育コオロギを題材とした研究など/ゆめりあ鉄道のまち創造プロジェクト)・商(地元金融機関の出前授業を通じたまちづくり)の各学科で地元課題を題材にした研究を進めた。専門学科通信の発行は予定通り3回発行となる予定。 | B |
| <p>⑥外部団体(「新庄・最上ジモト大学」等)と連携した実践的な取組み</p> | C | R7.9末現在;本校のプログラム参加者延べ20名(R6同時期;44名 ※R6年度総参加者101名)。10月に本校で開催した「しごとトーク」に本校から30名が参加。年度末までの総参加者は昨年度を下回る見込み。次年度は進路意識をさらに高めるため、外部へのプログラム参加を一層促していきたい。 | B |
| <p>③PTA主催「挨拶運動」の実施(年2回) ④PTA広報誌「神室峰」の発行(年2回) ⑤保護者への情報提供(くら連絡網・学年通信等) ⑥防災意識の向上(避難訓練及び安否確認訓練)</p> | B | 実状に合わせる形で、PTAの一部規約改定(2委員会を統合し「研修・生活委員会」とした)を行った。保護者の協力をいただきながら、挨拶運動、神室峰の発行を予定通り行うことができた。また避難訓練、安否確認訓練を通じて、防災の意識高揚を図ることができた。一方で、クマ対策、不審者対応等、不測の事態に対応する体制を維持していく必要がある。情報発信については、学校全体として必要性の高いものや各学年で共有すべき情報を遺漏なく保護者に伝えることができた。 | B |
| <p>⑦ホームページの年度内更新数(年150回以上) ⑧ICTを活用した本校の魅力発信</p> | A | 各科の学習活動や学校行事、部活動の活躍など、広く発信することができた。更新回数197回(3月11日現在) | B |